

里山グループ

森 英雄



エコファームグループ

弓場 厚次

◆Eggplant

この5月に副会長を辞し、久～しぶりに腰にのこぎりと剪定ばさみをぶら下げて気兼ねなく里山林に分け入って楽しく整備作業を行っています。そんな中で何となく山の景色・雰囲気は昔とかなり変わってきている戸惑いを感じています。

立木がまばらで里山らしくない個所があったり、椎茸ホダギに遮光ネットをかけたり、伐採枝などが投げ捨てられたり、はたまた緑陰広場にテントを張ったり……。

これは無理もない事だとも思います。この間に、『ナラ枯れ』という未曾有の『災害』に襲われた事が大きな原因でしょう。ならやま里山林では何とかこの被害をなくそうと、3年以上にわたって数台のチェーンソーをフル稼働させてナラ枯れ関係木を伐採する事が求められました。全く余裕がなく、他の作業にはほとんど手をかけられない状態だったのだと思います。

この必死の取り組みの結果、ナラ枯れ被害は最小限度で済み、その結果、里山での環境教育なども一度も休むことなく続けられました。現在は被害木もほとんど除去でき『緊急の復旧作業』はほぼ終わりました。

今は、本来の『子孫に引き渡すべき里山』を目指す整備すなわち『復興作業』の段階に入っています。

部分皆伐、植樹、さらには訪問者に美しいと感じさせる里山にするための維持管理などをいかに組み合わせしていくかが重要な課題であろうと思います。

さらにまた資源利用事業もレベルアップして推進していかねばならないと思います。

これらを行うためにはより多くの労力が必要です。メンバー募集中！ チェーンソーなどが使えなくても、森に入ってのこぎりや剪定ばさみなどで作業をすれば楽しく整備作業ができます。手軽な薪割り作業もあります。未経験の人も是非とものぞきに來てください。お待ちしております。

今シーズンは春先きに新築・改装した2棟の「育苗ハウス」で発芽した「ナス」が夏野菜の主演として順調に生育しました。エコファーム夏野菜の収穫も7月には台風12号の被害は少なく、後半から連日35℃を超える高温の中でも収量は上がり大収穫です。特に長ナスの



成長は素晴らしく、ナスの売り場面積も一段と大きくなり、「ほのぼの基金」の充実に努めており、お盆も過ぎると「秋ナス」の対策で『更新剪定』の時期を迎えます。



川井さん・樋口さんがお元なころの「茄子クラブ」
当会では平成20年ころ、川井顧問や樋口善雄さまがご健在で、エコファームでは「茄子クラブ」が発足し、臨時活動日に水やり当番を週2回設定してメンバーの支援で楽しくナスの栽培や収穫を経験させていただいたことを申し添えます。

ナスの表皮には「なす紺」と呼ばれる紫紺色の色素・抗酸化作用の高いナスニンがたくさん含まれています。ナスは調理する直前にできるだけ皮ごと調理して、有効に取り入れるように工夫して「秋ナス」を楽しんでください。

景観グループ

下村 晴文

◆実りの森と佐保自然の森

今回は、ベースキャンプから遠く離れているため、日頃目につかない実りの森と佐保自然の森での草刈り隊の活動の様子を、少しだけ紹介します。

実りの森は、ベースキャンプから、南東へ自転車道に沿って徒歩 15 分ほどかかります。竹林整備やクリ・ブルーベリー・グミなどの果樹園、そば畑などの活用が進んでいますが、敷地は 20,216 m²と広大です。春から秋にかけて 4~5 回の草刈りが必要です。秋にはそばの花で一面真っ白になります。残念ながら、下の道路や自転車道から見えにくい場所にありますが、少しでも地元の人にも、見て楽しんでいただけるようにと頑張っ草刈りを続けています。



実り森の草刈りとそばクラブの石拾い風景

佐保自然の森は、ベースキャンプから南へ山越えで行くか、自転車道に沿って実りの森を超えて徒歩 20 分以上かかります。敷地は 20,364 m²と広大ですが、活用は、あまり進んでいません。竹林もあり、花やそば栽培も行われましたが、今年は断念するそうです。草刈り隊も数回、部分的に整備を行っているだけですが、それでも草刈り中に地元の人からお礼を言われたこともあります。入り口には、奈良・人と自然の会の大きな看板が設置されており、会として特色ある活用方法が求められています。現在いろいろな活用方法が検討されており、今後に期待したいものです。



佐保自然の森の看板と草刈り風景



鳥シリーズ

小田 久美子

◆コマドリ

14cm 程の雀大の鳥。奈良では夏鳥で「県の鳥」でもあります。鳴き声が「ヒン カラカラ」と馬の嘶(いなな)きのように聞こえることから「駒鳥」と名付けられました。そのコマドリが最近極端に減少している実態を解明するために、2010年8月



奈良県と野鳥の会奈良支部の共同で台高山系 11ヶ所の緊急生態調査を実施しました。1977年には134羽だったのが、9羽に減少。特に大台ヶ原地区では 116→6羽という危機的な状況でした。私は4人で大台教会を宿に2日間で東西を歩き回りましたが、西大台展望所から向かいの大蛇岨からの声が聞こえただけで西側では0カウントに終わりました。コマドリは「スズタケ」「ミヤコザサ」

などの笹の仲間に依存し、隠れたり巣を作ったりしていますが、特に「スズタケ」は1年芽を鹿に食べられると枯れてしまうのです。大木が倒れても次世代更新ができないディアラインの景色は全国で見られます。鹿が食べないバイケイソウ・カワチブシ・ミヤマシキミ(ツルシキミも)ばかりで心配です。あれから8年、どんな環境変化があるのかと8月月例研修会に参加しました。以前よりも倒木が多くなり、上記の草たちが広がっていましたが、防御柵も多くなってその中にはスズタケなどが繁茂しているようでうれしかったです。その中ではきっと幼木も育っているはずですが、コマドリは今回も遠くで声がしましたが、方角は展望所への分かれ道方向だと思われます。



左：スズタケ 2008年 右：2010年枯死

などの笹の仲間に依存し、隠れたり巣を作ったりしていますが、特に「スズタケ」は1年芽を鹿に食べられると枯れてしまうのです。大木が倒れても次世代更新ができないディアラインの景色は全国で見られます。鹿が食べないバイケイソウ・カワチブシ・ミヤマシキミ(ツルシキミも)ばかりで心配です。あれから8年、どんな環境変化があるのかと8月月例研修会に参加しました。以前よりも倒木が多くなり、上記の草たちが広がっていましたが、防御柵も多くなってその中にはスズタケなどが繁茂しているようでうれしかったです。その中ではきっと幼木も育っているはずですが、コマドリは今回も遠くで声がしましたが、方角は展望所への分かれ道方向だと思われます。